

現況色調査のまとめ

青森県内全域にほぼ共通して見られる傾向

①赤茶系、青系の屋根色

集落や住宅に見られる金属製の折板屋根の色は、赤茶系、青系が中心で、どこの地域でも見られます。(一部にグリーン系)これらの色は、内陸農村部では赤茶系が多く、海岸部では青系が多いという傾向があります。集落によっては、はでさを競っているようなところもあり、学校や倉庫など比較的規模の大きい建造物にも使用されています。こうした色は、カラフルではありますが、景観としてのおちつきやまとまりに欠ける傾向があります。ある程度、彩度を抑えたトーンを使用していく必要があるといえるでしょう。

民家の屋根色



②濁色系の内陸部の土の色

色相1Yを中心とする褐色系からやや黄みを帯びた土が中心で赤土や色みの強い黄土色はほとんど見られません。山あいや農村部における建造物の壁の色などは、この土の色との調和が必要です。

土の色



③「木の文化」を感じさせる木質の色

木質の建材が橋りょう、デッキ、外構(柵や塀)、雪囲いなどの各種施設などにひんぱんに使用されています。津軽地方を中心に無塗装の木の素材色を生かす伝統が生活の中に根づいています。

木の色は年月とともに明度、彩度ともおちつき、人工材にはない、あたたかみのある風合を感じさせます。森林が豊かな青森県らしい素材がもたらす色彩といえ、大切にしたい色です。

木質の色



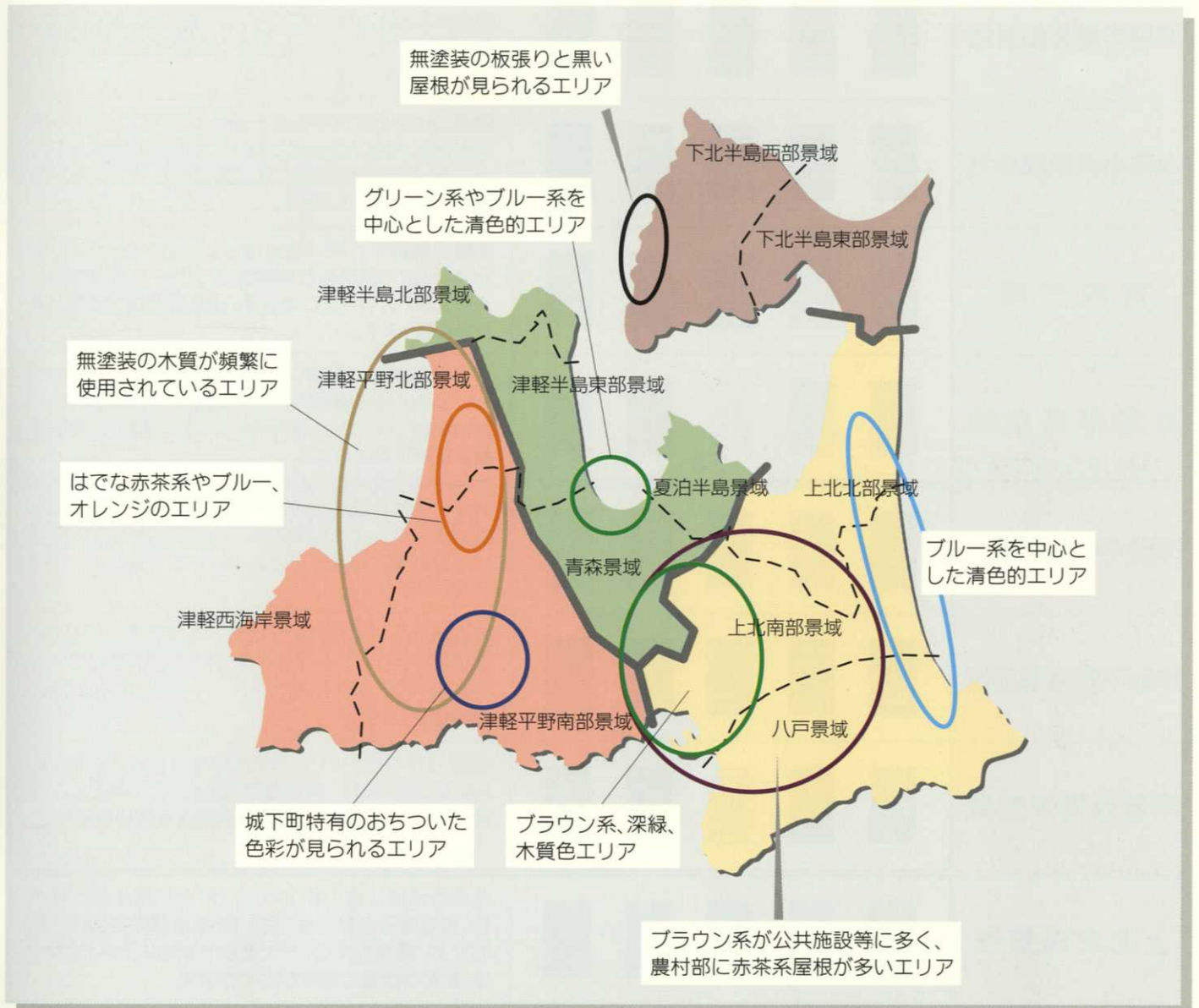
④市町村の推奨色範囲や景観づくりなどに見られる色彩

地域によっては、市町村の推奨色がエリアの特徴を形成していたり、町並の保全対策がエリアらしい色使いとなって表れている所もあります。

⑤郊外の幹線道路沿いは、商業施設を中心に色のコントロールが特に必要

市街中心部から郊外へ抜ける幹線道路沿いは、田畑を開発し、新たに商業施設や産業施設、住宅などが建てられています。こうした地域では周囲に建造物が少ないため、一棟の外装色が景観を左右します。郊外の商業施設などはそのスケールも大きいものが多く外装色やサインなどにおいて、周囲になじまない色や彩度が強すぎる色などが見られます。日本全国に見られる現象ですが、景観形成における色彩の重要性が特に高い地域といえます。

青森県の代表的エリアカラー



エリアカラーの見方

エリアカラーといっても、ここに示したような色が地域全面をおおい尽くしているわけではもちろんありません。また、県全体として見ると、エリアカラーの明快な地域と、色使いに明快な特徴のない平均的な地域があります。建造物に使われる色には、基本色※という色の種類と範囲があり、外壁には外壁、屋根には屋根に使いやすい色の領域があります。エリアカラーの明快な地域とは、基本色における特定の色範囲のウエイトが高く、平均的な地域とは基本色の使い方にあまりかたよりが無い地域といえるでしょう。エリアカラーには、明快な境界線があるわけではなく、グラデーション的な変化となって表れます。

※基本色…生活の中で慣用的に使われているベーシックな色のこと。









外 壁…ベージュ系、アイボリー系、明るい茶系など。都市部ではグレー系も慣用的に使われます。

屋 根…一般的には外壁より明度の低い色が広く使われています。全国的にみると黒に近いグレー系が代表で、おちついた茶系、緑系も慣用色です。青森県の民家では赤茶系や青系、緑系の屋根が慣用色となっています。

舗 装 材…グレー系やベージュ系、彩度の低い茶系などが代表的です。

道路附属物…防護さくや、照明施設、配電塔などは彩度の低い茶系やグレー系、緑系も慣用的に使われます。

現況色調査結果から推奨色範囲設定の経過

景 域	代表的現況色	現況色の特徴
津軽半島北部景域		海岸線に発達した漁村集落の民家や船小屋の外装に見られる木質の色がエリアカラーを形成しています。海岸沿いに山地が迫った雄大な自然環境に溶け込んだ伝統的色彩です。
津軽半島東部景域		国道沿いに伝統的な町並と、新しい施設がスポット的に点在し、対比をなしています。地域色は強くありませんが、植栽の松や海水浴場施設などの木質色が地域によくなじんでいます。
青森景域		多様な景観タイプが見られます。市街中心部では、明るいトーンの基調色が特徴的で、グリーン系やブルー系がエリアカラーといえます。山岳部ではブラウン系が多くなります。
夏泊半島景域		半島の海岸線に発達した漁村集落や、おちついたベージュ系の浅虫温泉の市街が国道沿いに見られます。漁村集落では、赤系、青系のカラフルな屋根の長屋風船小屋が散見されます。
津軽平野北部景域		外装に使用されている無塗装の木質色や、広大な水田地帯に点在する比較的是でな青系、赤茶系の屋根や津軽鉄道の車両にみられるオレンジ系などがエリアカラーです。
津軽平野南部景域		歴史的町並に見られる黒褐色と漆喰の色の対比や、赤茶系とグリーン系を使った配色などがエリアカラーとなっています。山間のリゾートではグリーン系の屋根も見られます。
津軽西海岸景域		国道101号線沿いとJR五能線から見られる海岸線沿いの岩礁や古い漁村集落、観光ホテルなどにこの地域らしいおちついた色調の外装色が見られます。
上北北部景域		色の地域性は強くありませんが、太平洋岸部の砂丘や、瀧湖周辺の自然性の高い針葉樹林の景観が特徴的です。陸奥湾側のJR大湊線や国道279号線からは、牧野や田園の色彩がのぞめます。
上北南部景域		山間部の施設や市街地の公共施設を中心にブラウン系が使用され、エリアカラーとなっています。農村集落には赤茶系の屋根、海岸線はブルー系の屋根が多くなります。
八戸景域		山あいや谷底平野上に点在する民家や古い木造建築におちついた外壁と赤茶系屋根のエリアカラーが見られます。海岸線はブルー系の屋根が多くなり、市街地は清色的な色使いです。
下北半島西部景域		国道338号線沿いから見られる漁村集落の黒い屋根色と、グレイッシュな板張りの組み合わせがエリアカラーとなり、地域の特徴を成しています。巨石や奇岩、岩礁の色も印象的です。
下北半島東部景域		むつ市市街では、赤茶系の屋根が目立ちますが、北洋館や水源池公園など石づくりの建築において、おちついた色彩も見られます。来さまい橋通りの木質のモニュメントがシンボル化されています。

12景域のエリアカラーの近似性と、ガイドプランとしての使いやすさを配慮し、4地域に統合し、推奨色範囲を設定しています。

代表的現況色のはでな赤茶系や青系は、主に民家の金属屋根(カラートタン)の色で、大規模行為や公共事業の基調色、準基調色には直接反映させにくいと判断されます。

※トーンは明度と彩度の範囲を示していますので、同一色相の同じ記号でも微妙な色のちがいががあります。色相とトーンの記号の見方はP.4,5参照

推奨色範囲設定の方針

推奨色範囲においてキとした色※

青森地域

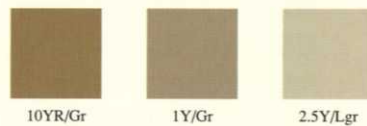
主に自然環境との調和をはかるケース

- 四季を通じての植生や土の色、海岸線の色と調和する色彩を重視します。
- 山あいのエリアカラーとして見られるブラウン系やおちついたグリーン系を推奨します。



自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 地域の植生や水田風景、土の色、町並のベージュ系やアイボリー系と調和する色彩を推奨します。
- エリアカラーとして見られるブラウン系やおちついたベージュ系も重要です。



市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 市街の基調色を成す明るいトーンを重視します。
- エリアカラーとして見られるグリーン系やブルー系の比率を高めに設定します。



津軽地域

主に自然環境との調和をはかるケース

- 四季を通じての植生や土の色、海岸線の色と調和する色彩を重視します。
- 山あいの諸施設に見られるブラウン系やグリーン系のおちついたトーンを推奨します。



自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 津軽平野特有の広大な水田風景となじみやすい色を重視します。
- エリアカラーとして見られる赤茶系やオレンジ系の色と調和する色彩を重視します。



市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

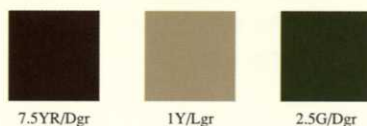
- 市街の古い町並に保全されているおちついたトーンを重視します。
- エリアカラーとして見られる赤茶系やグリーン系に合う色を重視します。



南部地域

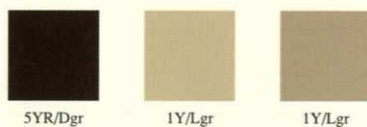
主に自然環境との調和をはかるケース

- 山間部のエリアカラーとして見られるブラウン系やおちついたグリーン系を推奨します。
- 海岸線は内陸にくらべ、明るめのトーンがマッチします。



自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 地域の植生や水田風景、土の色、町並のベージュ系やアイボリー系と調和する色彩を重視します。
- エリアカラーとして見られるおちついたブラウン系を推奨します。



市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

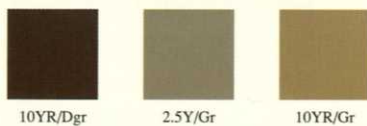
- 市街の基調色を成す明るいトーンを重視します。
- 沿岸部の市街地ではエリアカラーの清色系(ブルー系など)の比率を高めます。



下北地域

主に自然環境との調和をはかるケース

- 四季を通じての植生や土の色、海岸線の色と調和する色彩を重視します。
- 山あいの諸施設に見られる木質系のブラウン系のおちついたトーンを推奨します。



自然が豊富な環境で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 海岸沿いに見られる風合に富んだ木質外壁や黒色の屋根色などのエリアカラーの比率を高めます。
- 地域の植生や水田風景、土の色と調和する色彩を重視します。



市街地で、町並や人工物どうしとの調和をはかるケース

- 町並の基調色として使いやすい基本色を重視します。
- 沿岸部はやや明るめに設定します。



いろいろな景観配色のテクニック

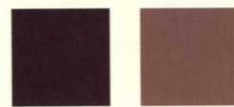
1. エリアカラーを使う

風土に培われてきた色は、長い時間の積み重ねの中で環境から学び、自然の色や素材を取り入れ、使いこなしてきたものが多いといえます。したがって、その地域の風土色や素材を媒介にして景観となじませることで統一感が生まれ、愛着のある景観をつくることができるようになります。



G/DI

R/Dp



YR/DI

R/Dgr

2. トーン配色をする

建造物等に使う色はできるだけ色相をしぼり、色の明暗(明度差)をつけてトーンを微妙に変化させる配色にします。同一色相のトーン変化で配色すると色の統一感が生まれ、配色に奥行きが出て、洗練されてきます。



YR/DI

R/Dk

YR/L



R/DI

YR/Lgr

YR/L

3. カラーリンケージで配色する

近隣の壁や屋根等の色と同一・類似の色を取り入れることによって、環境になじませる方法をカラーリンケージといいます。この方法を使うことで、近隣の建造物等と共通の色が用いられると、景観のまとまりと連続性が出てきます。自然の樹木などと外壁・屋根色がリンケージすると自然の中に溶け込みます。



YR/L

YR/DI

R/DI

YR/Dk



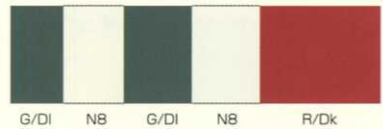
YR/Dgr

YR/Gr

YR/Gr

4. グラデーションとセパレーションを使う

おだやかにまとめる時には、暗い色・濃い色から明るい色・淡い色へと徐々にトーンを変化させるグラデーション(漸変)の方法を用います。壁面の一部にアクセント的に対比感を出したり、引きしめるためにはセパレーション(分離)の手法を使います。



5. 基調色とアクセント色のバランスをとる

アクセント色の比率は基調色、準基調色に対して9:1、8:2程度の割合で考えるとまとまりやすくなります。



6. 面積や光による色の見え方に注意する

小さな色見本より畳くらいの大きさで見た時の方が、明度・彩度ともに約0.5~1.0アップしたような見え方になります。(明るく、色みを強く感じる面積効果)また、晴天時、日陰の部分は青みが、日の当たる部分は赤みを強く感じます。



7. 仕上げによる見え方の違い

石材やコンクリートでは、表面の仕上げのちがいによって生じる陰影が明暗の違いとなって表れます。テクスチャ(見た目の手ざわり感)により表情を与えるテクニクのひとつです。



表面の凹凸により陰影が表れます。



平滑な仕上げにより、模様がはっきり表れます。

8. 時間の経過を配慮する

自然材やレンガなどの素材色は年月の経過とともに味わいや深みを増しますが、塗装色は退色してきます。素材がもつ重量感や質感にマッチした色は、経年変化(エージング)に耐えやすいといえます。

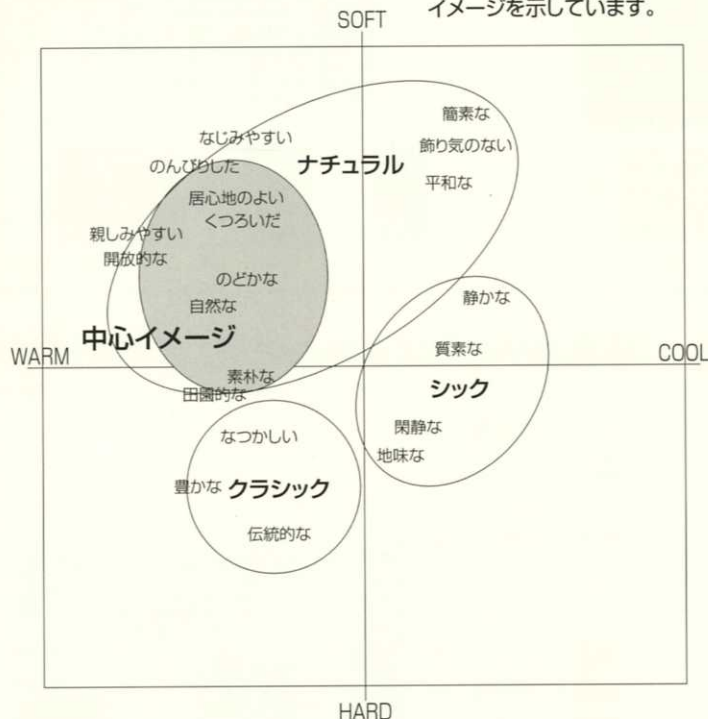


景観のイメージ調査結果

各地域の住民のみなさまを対象に、「お住まいの市町村にふさわしいと思う景観イメージ」について、平成10年12月、アンケート調査を実施しました(回答者1323名)。その結果を「データベース・イメージ調査法」により分析したうちの一部をご紹介します。

<景観イメージの方向性>

180語の言葉の中から選ばれた上位20語の位置とイメージを示しています。



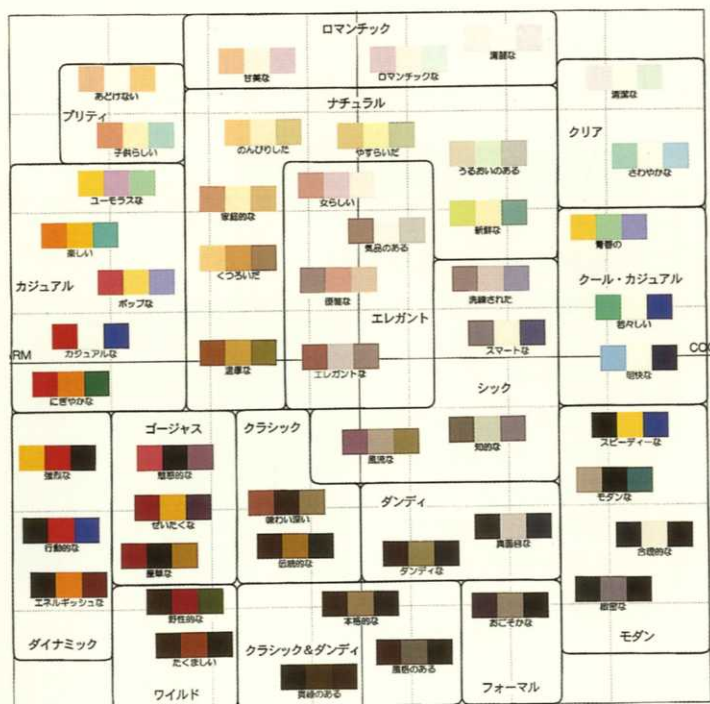
1. 青森県の景観イメージ

- ・青森県の各市町村の住民の共通イメージは、ナチュラルイメージが中心です。ナチュラルゾーンの言葉は、全体の約7割の人があげており、青森県全体のイメージを構成しています。
- ・自然な、のどかな、素朴な、田園的な、のんびりしたといった言葉が多く選ばれています。
- ・次に、静かな、閑静な、地味なといったシックイメージ、伝統的な、なつかしいといったクラシックイメージが強くなっています。
- ・各地域ともナチュラルイメージが高いので、このイメージを中心に据え、各景域の特徴を生かしていくことが大切です。

<景観イメージの配色>



<イメージスケール(配色)>



イメージスケールとは

色は固有のイメージをもっており、色に対して抱くイメージは、人によって微妙に異なりますが、共通する部分も多いものです。そのイメージの共通感覚を、心理的研究の蓄積で明らかにしたものがNCD(日本カラーデザイン研究所)のイメージスケールです。

左図は、判断基準となるWARM(あたたかい)-COOL(つめたい)、SOFT(やわらかい)-HARD(かたい)の座標軸に3色配色の基本的なイメージとその配色のテーマである言葉を位置づけたものです。一般的なイメージの全体像といえます。配色や言葉、いずれを選んでも、求めているイメージの分布パターンがわかります。

今回の調査では、居住地域のふさわしいと思われる景観イメージを、ここに位置づけられた180語の言葉を使って調査、分析しました。

2.各市町村別景観イメージの抜粋

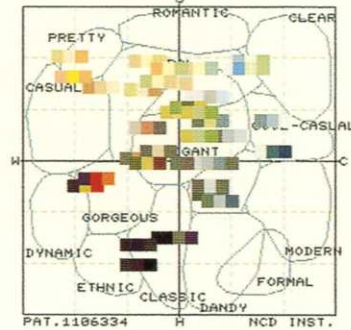
青森市

ナチュラルイメージは共通していますが、それに加えて、伝統的な、静かな、質素な、情緒的な、地味なといったイメージが強くなっています。
ナチュラルイメージは約6割の人があげており、クラシック、シックイメージが続いています。

伝統的な



静かな



イメージ語	パーセント
1 素朴な	50.0
のどかな	〃
伝統的な	〃
自然な	〃
5 静かな	45.0
6 田園的な	40.0
のんびりした	〃
8 情緒的な	35.0
質素な	〃
地味な	〃
平和な	〃
12 飾り気のない	30.0
豊かな	〃
なつかしい	〃
居心地のよい	〃
16 くつろいだ	25.0
殺情的な	〃
味わい深い	〃
質素な	〃
ひなびた	〃

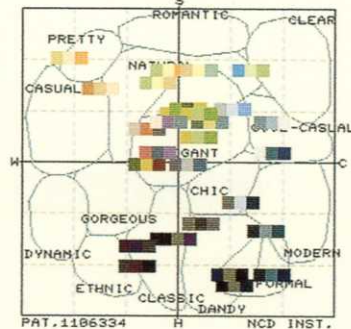
弘前市

ナチュラルイメージは共通していますが、それに加えて、伝統的な、情緒的な、文化的な、風格のある、味わい深いといったイメージが強くなっています。
ナチュラルイメージは約3割の人があげており、4地域のなかでは低い割合になっています。クラシック、シックイメージが続いています。

情緒的な



風格のある



イメージ語	パーセント
1 情緒的な	70.0
伝統的な	〃
3 文化的な	65.0
4 風格のある	60.0
5 居心地のよい	55.0
自然な	〃
7 味わい深い	50.0
古風な	〃
9 気品のある	45.0
10 のどかな	40.0
11 素朴な	35.0
校舎のある	〃
田園的な	〃
静かな	〃
15 平和な	30.0
後推な	〃
17 高尚な	25.0
親しみやすい	〃
閑静な	〃
なつかしい	〃

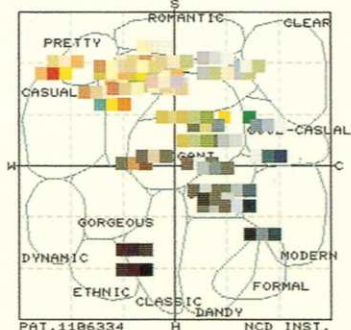
八戸市

ナチュラルイメージは共通していますが、それに加えて、親しみやすい、なつかしい、伝統的な、ひかえめな、ほらかなといったイメージが強くなっています。
ナチュラルイメージは約6割の人があげており、シック、クラシックイメージが続いています。

親しみやすい



なつかしい



イメージ語	パーセント
1 自然な	60.0
2 質素な	55.0
3 素朴な	50.0
のどかな	〃
のんびりした	〃
6 親しみやすい	40.0
なつかしい	〃
9 飾り気のない	35.0
ひかえめな	〃
11 質素な	30.0
ほらかな	〃
13 開放的な	25.0
なじみやすい	〃
おらかな	〃
気静かな	〃
閑静な	〃
地味な	〃
居心地のよい	〃
温和な	〃

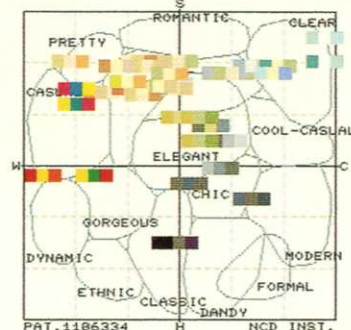
むつ市

ナチュラルイメージは共通していますが、それに加えて、親しみやすい、味わい深い、質素な、奥ゆかしいといったイメージが強くなっています。
ナチュラルイメージは約7割の人があげており、4地域の中では高い割合となっています。カジュアル、シックイメージが続いています。

味わい深い



質素な



イメージ語	パーセント
1 居心地のよい	60.0
自然な	〃
3 やすらかな	50.0
4 親しみやすい	40.0
なじみやすい	〃
飾り気のない	〃
のどかな	〃
8 くつろいだ	35.0
素朴な	〃
健康な	〃
11 味わい深い	30.0
質素な	〃
奥ゆかしい	〃
14 質素な	25.0
開放的な	〃
気のある	〃
さっぱりした	〃
温和な	〃
楽しい	〃
快適な	〃
20 洗練された	20.0